

## 韓国語の色彩語の特徴

張錫璟 (チャン・スキョン)

### 1. はじめに

本研究の目的は、韓国語母語話者にとって自然であり繰り返し用いられる、色彩語と語彙の組み合わせの実態を分析し、韓国語の色彩語の特徴を明らかにすることである。

張錫璟 (2010) は、現代において、数多くの韓国語の色彩語の中からどのような色彩語が実際に用いられているのか、色彩語の言語使用を計量的方法で調査している。また、色彩語と語彙の組み合わせの実態をコーパスより抽出調査し、どのような語彙と色彩語が共に現れるのかを調べている。本研究では、それらの調査を分析し色彩語の特徴を検証する。

### 2. 色彩語の品詞および形態

張錫璟 (2010) は、コーパス資料として、“국립국어연구원 21세기 세종계획 균형말뭉치” (The 21st Century Sejong Project) を用い、〈written (小説)〉全語彙 (420, 621語彙) の中から、実際の使用実態が確認できる ‘빨강 (赤)’ に関する色彩語を抽出した。これらの色彩語の品詞別出現頻度および形態類数を表すと次のように表すことができる：

【表1】色彩語の品詞別出現頻度および形態類数

品詞	頻度	形態類数
名詞	76 ( 6%)	2
副詞	7 ( 1%)	3
形容詞	831 ( 73%)	27
動詞	226 ( 20%)	15
(合計)	1140 (100%)	47

色彩語は名詞、副詞、形容詞、動詞で用いられるが、この資料でもっとも用いられる色彩語の品詞は、形容詞 (色彩語出現頻度の73%) である。そして色彩形容詞の場合、色彩語の形態は27類になる。これは、用いられる色彩語は形容詞の場合が多く、他の品詞の場合と比べ多類の形態の色彩語が用いられていることを示している。

また、異なる形態の色彩形容詞が、それぞれどのような形で用いられるのかを【表2】のよ

うに表すことができる。色彩形容詞は連体形、副詞形、叙述形の形で用いられ、連体形（色彩形容詞出現頻度の66%）でもっとも用いられている。特に、出現頻度が高い‘붉다’（333）、‘빨갳다’（185）の色彩形容詞は、‘붉은’（265）、‘빨긴’（134）の形で用いられる場合が多い。【表2】の網かけの色彩形容詞は連体形で用いられる場合が多い色彩語である。

【表2】色彩形容詞の連体形・副詞形・叙述形の出現頻度

色彩形容詞	連体形	副詞形	叙述形	色彩形容詞の頻度
검붉다	26	7	2	35
발가우리하다	0	1	0	1
발갳다	3	13	2	18
발그대대하다	1	1	0	2
발그레하다	2	2	1	5
발그스레하다	1	0	0	1
발그스름하다	0	1	0	1
발그죽죽하다	1	0	0	1
벌겅다	23	72	8	103
불그레하다	10	2	4	16
불그리하다	0	1	0	1
불그스럽하다	0	1	0	1
불그스레하다	7	0	1	8
불그스름하다	0	1	0	1
불그죽죽하다	6	0	2	8
불긋불긋하다	0	1	0	1
붉다	266	48	19	333
붉디붉다	1	0	0	1
붉으락푸르락하다	0	0	3	3
붉으레하다	0	1	0	1
붉으죽죽하다	1	0	0	1
빨갳다	134	42	9	185
빨긋빨긋하다	0	1	0	1
빨겅다	13	6	3	22
새빨갳다	18	3	2	23
시빨겅다	31	19	5	55
씻벌겅다	1	2	0	3
합계	545 (66%)	225 (27%)	61 (7%)	831 (100%)

### 3. 色彩語と現れる名詞のカテゴリー

張錫璟 (2010) は, “21 세기 세종계획 균형말뭉치” (written (小説)) の資料で, 色彩形容詞 (連体形) とどのような名詞が共起するかを調べている. 次の【表3】は, これらの名詞のカテゴリーにおける色彩形容詞 (連体形) の出現を表す.

【表3】名詞のカテゴリーにおける色彩形容詞 (連体形) の出現

	乗り物	照明	抽象	自然	身体	血液	衣類	火	建物	色彩	植物	字・形
발그대대한					○							
발그레한					○							
발그스레한		○										
발그죽죽한		○										
불그레한		○			○							
불그스레한			○		○					○	○	
새빨간			○	○	○	○	○				○	
시빨건			○	○	○	○	○	○	○			
검붉은				○	○	○	○	○	○	○		
빨간	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
붉은		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
빨건					○	○	○	○	○			
불그죽죽한		○	○		○	○						
벌건			○	○	○	○						
발간			○	○								
붉디붉은				○								

【表3】の色彩語に焦点を置いて考察すると, ‘붉은’ は「乗り物」に関する名詞を除いてすべてのカテゴリーの名詞と共に現れる. ‘빨간’ は抽象的な名詞を除くすべてのカテゴリーの名詞と共に現れる. ‘시빨건’ が抽象的な名詞と共に現れ, ‘검붉은’ が「色彩」に関する名詞と共に現れる場合を除き, ‘시빨건’ と ‘검붉은’ は同じカテゴリー (自然, 身体, 血液, 衣類, 火, 建物) の名詞と共に現れる. ‘발그대대한’, ‘발그레한’ は「身体」に関する名詞のみと現れる. ‘발그스레한’, ‘발그죽죽한’ は, 「照明」に関する名詞のみと現れる.

色彩語と現れる名詞のカテゴリーからの考察では, 「身体」に関する名詞と現れる色彩語の形態は多く見られ, ‘발간’, ‘발그스레한’, ‘발그죽죽한’ を除くすべての色彩語と共に現れる. 「血液」に関する名詞と現れる色彩語の形態は様々で, ‘붉은’, ‘벌건’, ‘빨건’, ‘시빨건’, ‘빨간’, ‘새빨간’, ‘검붉은’, ‘불그죽죽한’ の色彩語と共に現れる. また, 「乗り物」に関する

る名詞は, ‘빨간’ のみと共起する. 「字・形」に関する名詞は, ‘빨간’, ‘붉은’ と共起する.

#### 4. 色彩語の特徴

色彩語が, 色彩に関する表現をする場合と色彩以外に関する表現をする場合に, 色彩語の特徴を検討する.

##### 4. 1. 色彩に関する表現の場合

色彩に関する表現の場合, 色彩語は, 名詞の「色相」, 「色調」を表す場合がある. さらに, 話し手から見た, 名詞の「色の印象」を表す場合がある.

##### 4. 1. 1. 色相 (Hue) 表現

色相は赤, 黄, 緑, 青といった色合いの違いを表す. 本稿では, 色彩語が名詞の「色相のみ」を表す場合, 色彩語は「基本的表現」に用いられるとする. 赤の「基本的表現」の場合, 単一色彩語の ‘붉은’, または派生色彩語の ‘빨간’ が用いられる.

次は, ‘붉은’<sup>1</sup>が基本的表現で用いられる例文である:

- (1) 붉은 벽돌로 제법 아담하게 지은 빌딩식 삼층짜리 건물이었다. 최근에 새로 지은 건물이 분명했다. 【CE000030】  
(赤レンガでなかなか上品な構えの3階建ての建物だった.  
明らかに最近新築した建物だった.)
- (2) 원기는 긴 그림자를 끌며 5년 만에 다시 고향땅을 밟았다. 마을 어귀의 당나무 머리숲은 붉은 노을에 젖어 있었다. 【CE000026】  
(ウォンギは長い影を引いて5年ぶりに再び故郷の土を踏んだ.  
村の入り口にある砂糖の木の頭部の森林は, 赤い夕焼けに染まっていた.)
- (3) 날의 태양을 우리르고, 어두운 저녁이면 붉은 포도주에 피곤을 씻는다. 【BEXX0008】  
(昼の太陽を敬い, 暗い夕方になれば赤ワインで疲労を洗い流す.)

---

<sup>1</sup> 辞書での ‘붉다’ に関する解説では, ‘붉다’ は「赤い」の基本的総括的な性格を反映し, 他の色(青・黄など)から区別して「赤い」ことを表現する(朝鮮語大辞1986).

- (4) 그리고 동해 바다 위에 떠오르는 붉은 해!  
 (そして東海(日本海)の上に浮かぶ赤い太陽!)

次は、上記の(1),(4)で‘붉은’によって色彩表現された同一名詞である‘벽돌(レンガ)’, ‘해(太陽)’が, ‘빨간’<sup>2</sup>と共起する例文である:

- (5) 양동 입구에 들어서니 빨간 벽돌의 삼사 층 건물들이 보이면서  
 지지분하고 비좁은 골목들이 이리저리 엇갈렸다. 【AE000075】  
 (ヤンドンの入口に入ると, 赤いレンガの三階か四階建ての建物が見え,  
 薄汚くて狭い路地が複雑に交錯していた.)

- (6) 눈덮인 역사 지붕 위로 겨울의 빨간 해가 솟았다. 【BEXX0009】  
 (雪に覆われた駅舎の屋根の上に冬の真っ赤な日が昇った.)

(5),(6)の場合, ‘빨간’が同一の名詞と共起して‘붉은’と同様に色相のみを表す基本的表現で用いられているとは判断できないが, 次の例文では, ‘빨간’は名詞の基本的表現に用いられているといえる:

- (7) 그의 배려에 안심을 하며 그가 권하는 빨간 포도주를 거듭 마셨다.  
 【AH000028】  
 (彼の思いやりに胸をなでおろし, 勧められるままに赤ワインを立て  
 続けに飲んだ.)

- (8) 그리고 햇빛에 번쩍이는 물 위로 헤엄쳐 돌아가는 빨간 모자, 파란 모자가  
 그의 눈에 선뜻 띄었다. 【BEXX0005】  
 (そして日の光にきらめく水の上を, 泳ぎ回る赤い帽子, 青い帽子が彼の目  
 にちらと浮かんだ.)

(7)の‘포도주(ワイン)’と共起する‘빨간’は, ‘포도주’の実際の色を表現するよりは, ‘흰 포도주(白ワイン)’と区別され, 様々な赤色を総称する色相の‘포도주’を表すとい

---

<sup>2</sup>辞書での‘빨강다’に関する解説では, ‘붉다’は赤の総称的表現としている反面, ‘빨강다’は「鮮明な赤」を表現するとしている(朝鮮語辞典 2008).

える。また、(8) の ‘모자 (帽子)’ と共起する ‘빨간’ は、実際の ‘모자’ の色を表すのではなく、‘파란 (青い)’ と区別される赤の色相の ‘모자’ を表すといえる。このように、‘빨간’ も共起する名詞と文脈によっては、‘붉은’ と同様に、赤の基本的表現で用いられる場合がある。

さらに、名詞によっては、‘붉은’ と共起するよりは ‘빨간’ と共起し、名詞の色相が表現される場合がある。次の例文の ‘빨간’ は、‘(귀녀의) 입술 (唇)’、‘장미 (バラ)’、‘스포츠카 (スポーツカー)’ が、他の色相ではなく、赤の色相をしていることを表現するために用いられている：

- (9) 아른거리는 귀녀 모습을 힐끔 쳐다본다.

알뜰하고 빨간 입술, 입매를 조금 비틀며 희미한 웃음을 머금는다.

【BEXX0003】

(見え隠れする鬼女の姿を横目で見つめる。

薄く赤い唇, 口元を少しゆがめて薄笑いを浮かべている.)

- (10) 흔하고 어딘가 천박해 보여서 빨간 장미는 딱 질색이었는데 굳이 말을 안 해도 효철은 매번 노란 장미를 들고 왔으니까. 【BEXX0001】

(陳腐でどこか浅はかな感じがするので、赤いバラはやめてもらいたいのだが、あえて言わなくてもヒョチョルは毎度黄色いバラを持って現れたのだから.)

- (11) 다희의 빨간 스포츠카는 날렵하게 인천을 빠져 나왔다. 【BEXX0001】

(ダヒの赤いスポーツカーは素早く仁川を抜け出た.)

- (12) 수호는 그가 생일선물로 준 빨간 티셔츠를 입고 있었다. 【CE000020】

(スホは、彼が誕生日プレゼントにくれた赤いTシャツを着ていた.)

このように、「色相のみ」の表現に用いられる色彩語の形態は ‘붉은’ または ‘빨간’ であり、これら色彩語がそれぞれ同一の名詞と共に現れる場合も、それぞれ特定の名詞と共起する場合もある。

#### 4. 1. 2. 色調 (Color Tone) 表現

色彩語は、赤の色相を表現する他に赤の微妙な「色調」を表現し、色彩対象である名詞が

「どのような明るさと鮮やかさで赤いのか」の話し手の判断を反映する場合がある。

色調は、明度（Brightness）と彩度（Saturation）で表現される。明度が高いと色が薄く、明度が低いと色が濃く、彩度が高いと色が鮮やかで、彩度が低いと色がくすんでいる表現になる。本稿では、色調表現を、‘검다（黒い）’との結合による明度、色彩語の母音、子音、接頭辞、接尾辞などで表現される明度と彩度の「複合表現」とする。

青山秀夫（1966）は、色彩形容詞が表現する語感差である色の明度（明るさ）・彩度（鮮やかさ）を「色彩の度合い」と定義している。陰母音ならば暗さが強調され、陽母音ならば鮮やかさ・明るさが強調されるが、接頭辞が付いた派生語と濃音の派生語は「色の度合い」を強調していると指摘している。

本稿では、青山秀夫（1966）が述べている色の明度・彩度は、色彩語の派生の形態によって表現されるが、陰母音ならばくすみが強調され、陽母音ならば鮮やかさが強調され、接頭辞は色調を強調し、子音が濃音ならば色の濃さ（暗さ）が強調されるとする。

【表4】 母音、子音による彩度・明度の表現

母音、子音の例	彩度・明度の程度		彩度・明度の表現
陽母音 ‘ㅏ’	彩度	高	鮮やかな
陰母音 ‘ㅓ’	彩度	低	くすんだ
平音 ‘ㅗ’	明度	高	薄い、明るい
濃音 ‘ㅜ’	明度	低	濃い、暗い

【表4】によると、‘빨간/뽀얀’のように陽母音を含む色彩語は、色の鮮やかさを表現するが、‘별건/뽀얀’のような陰母音を含む色彩語は色がくすんでいることを表現する。また、‘빨간/별건’のように子音の平音を含む色彩語は、色の薄さを表現するが、反対に、‘뽀얀/뽀얀’のように子音の濃音を含む色彩語は、色の濃さを表現する。

本稿では、派生色彩語は明度と彩度を次のように複合表現し、色調を表すとする：

【表5】色彩語による色調の表現

色彩語の例	色調の程度		色調の表現
발간	明度 彩度	高 高	薄い, 明るい, 鮮やかな
벌건	明度 彩度	高 低	薄い, (明るい), くすんだ
빨간	明度 彩度	低 高	濃い, (暗い), 鮮やかな
빨건	明度 彩度	低 低	濃い, 暗い, くすんだ

‘새빨간’, ‘시빨건’ のような, 接頭辞 (새-, 시-) が用いられる色彩語は, 接頭辞によって, それぞれ ‘빨간’, ‘빨건’ が表す色調を強調しているとする。

次の例文では, 名詞と共に起る色彩語が, 母音の陰陽の交替, 子音の平音と濃音の交替によって, 名詞の色調を表している:

- (13) 악보 위로 붉은 노을이 밀물처럼 밀려들었다. 【BEXX0001】  
 까만 음표가 발간 강물에 둥둥 떠 있는 것 같았다.  
 (楽譜の上に赤い夕焼けが上げ潮のように押し寄せた。  
 黒い音符が真っ赤な川の流れにふわふわ浮いているようだった.)
- (14) 밥알 같은 구더기와 벌건 불개미들이 생각났다. 【BEXX0009】  
 (米粒のようなウジとくす赤い赤蟻 (ヤマアカアリ) を思い出した.)
- (15) 빨간 고추장에 두부와 고기를 넣어 끓여서 마늘 양념을 푹 쳐서 상에  
 놓아주던 그 두부찌개가 그리웠다. 【BEXX0005】  
 (真っ赤なコチュジャンに豆腐と肉を入れて沸騰させ, ニンニクの薬味をたっぷり利かせて膳にのせてくれた, あの豆腐チゲが懐かしかった.)
- (16) 벌어진 개구리의 배 안에서는 콩알만한 심장이 여전히 박동하고 있었다.  
빨건 심장이었다. 【CE000020】  
 (開いたカエルの腹腔には, 豆粒ほどの心臓がまだ脈打っていた  
赤黒い心臓だった.)



- (17) 오십 전 은화가 새빨간 노을빛에 분홍색으로 반짝거린다. 【BEXX0022】  
 (50錢銀貨が真っ赤な夕日に映えてピンク色に輝いている.)
- (18) 큰방에선 시빨간 불이 훅훅 타고 있을 것이다. 【BEXX0004】  
 (広間では真っ赤な火がゴウゴウ燃えているだろう.)

本稿では、色彩語による名詞の色調表現は、母音の陰陽の交替、子音の平音と濃音の交替、接頭辞によって表現されるだけではなく、接尾辞によっても表現される場合があるとする。青山秀夫(1966)は、色の明度・彩度の表現は「色の度合い」とし、「色の度合い」とは区別して「色の状態」は色彩語の接尾辞によって表現されると述べた。しかし、色彩語の接尾辞の構成要素である形態素の中には、色の明度・彩度を表すものがある。たとえば、「-디-」は「진함(濃い)」を、「-대대-」は「칙칙함(くすみ)」を、「-죽죽/족족-」は「조금 칙칙함(ややくすみ)」を、「-스름-/스레-」は「조금(少し)」を、「-(무)레-」は「얇음(薄い)」を表す形態素である。本稿では、名詞の色調は、色彩語の母音と子音によって表現された色調に、接尾辞によって表現される明度あるいは彩度を合わせた複合表現になる場合があるとする。

【表6】の‘발그대대한’, ‘발그레한’, ‘발그스레한’, ‘발그죽죽한’は、母音と子音によって表現された色調に、接尾辞によって明度あるいは彩度を足した色調を表現している。従って、‘발그스레한’は‘발간’より薄い色を表現し、‘발그레한’は‘발그스레한’より薄い色を表現している。また‘발그죽죽한’は‘발간’よりくすんだ色を表現し、‘발그대대한’は‘발그죽죽한’よりくすんだ色を表現している。

【表6】接尾辞による彩度・明度の表現

色彩語の例	母音, 子音による色調の表現	接尾辞による彩度・明度の表現		
		彩度	明度	表現
발그대대한	薄い, 明るい, 鮮やかな	彩度	低	くすんだ
발그레한	薄い, 明るい, 鮮やかな	明度	高	薄い, 明るい
발그스레한	薄い, 明るい, 鮮やかな	明度	高	少し(赤い)
발그죽죽한	薄い, 明るい, 鮮やかな	彩度	低	少しくすんだ
불그레한		明度	高	薄い, 明るい
불그스레한		明度	高	少し(赤い)
불그죽죽한		彩度	低	少しくすんだ
붉디붉은		明度	低	濃い, 暗い

次は, 接尾辞を含む色彩語によって, 共起する名詞の色の色調が表現される場合である:

- (19) 주름잡힌 발그대대한 목덜미엔 잔소름이 막 돌아오르는 중이었다.  
(しわが寄って赤みを帯びたうなじは今まさに鳥肌が立とうとするところ  
だった.) 【BEXX0018】
- (20) 신철이는 그의 발그레한 볼 위로 흐르는 눈물을 보니 그도 따라서  
속이 언짢아졌다. 【BEXX0005】  
(싱철은, 彼のほんのりと赤い頬を伝う涙を見ると, 自分もつられて  
胸がこみ上げてきた.)
- (21a) 누군가 스위치를 조작해 발그스레한 조명으로 만들었다.  
(誰かがスイッチを操作して, 薄赤い照明にした.) 【BEXX0018】
- (21b) 스위치를 조작해 발그죽죽한 조명으로 만들었다.  
(スイッチを操作して, くすんだ赤色の照明にした.) 【BEXX0018】
- (22) 그는 마당 한가운데서 철퇴를 맞은 늙은 소처럼 쓰러지면서, 불그레한  
등잔불빛을 보았다. 【BEXX0009】  
(彼は庭の真ん中で, 鉄槌を食らった老牛のように倒れながら, ほんやり赤  
らんだ灯火を見た.)
- (23) 들판에서 불그스레한 꽃이파리로 입가를 물들이거나 【BEXX0018】  
(野原で薄赤い花びらで口元を染めたり)
- (24) 옆에는 흰 홉이불과 불그죽죽한 담요에 감싸인 아기가 잠들어 있었다.  
(横には, 白い掛け布団と赤い毛布にくるまれた赤ん坊が寝ついていた.)  
【BEXX0009】
- (25) 사라진 효철 대신 밤의 시작을 알리는 불디붉은 노을이, 분화하는  
화산의 용암처럼 견잡을 수 없이 순식간에 다회의 몸으로 달려들었다.  
(消え失せたヒョ철の代わりに, 夜の始まりを知らせる真っ赤な夕焼け  
が, 噴火する火山の溶岩のように防ぎようもなくなくあつという間にダヒ

の体に押し寄せた.)

【BEXX0001】

(21a) と (21b) の ‘말그스레한’, ‘말그죽죽한’ は조명 (照明) と共起し, 조명 (照明) の異なる色調を表現している. (25) では, ‘분화하는 화산의 용암처럼 (噴火する火山の溶岩のように)’ が表す ‘노을 (夕焼け)’ の色調は, ‘붉디붉은’ の色彩語によって, その色の濃さが強調される. このように, 色彩語は, 共起する名詞の色調を, 文の他の語彙のニュアンスに合わせて表現する場合がある.

‘검다 (黒い)’ と結合する合成色彩語である ‘검붉은’ は, 次のような明度を表現する:

【表7】 ‘검다’ との結合による明度の表現

色彩語の例	色調の程度		色調の表現
검붉은	明度	低	濃い, 暗い

次の文では, ‘늑 (さび)’ の独特な色調は, 共起する ‘검붉은’ が表す色調によって表現される:

(26) 마개에 검붉은 늑이 슬어 있었다.

【BEXX0009】

(蓋に赤黒い錆がついていた.)

次の文では, ‘별에 그을린 (日焼けした)’ という前提の ‘얼굴 (顔)’ の色調は, 共起する ‘검붉은’ が表す色調によって表現される. この場合, ‘검붉은’ が表す色調は, 文の ‘희고 깨끗 (色白ですべすべ)’ が表す明度の高い色調とは対照的である:

(27) 근술은 벳사람답게 별에 그을린 검붉은 얼굴인데 봉산은 경강의 장상답게

기름한 얼굴에 낮빛이 선비처럼 희고 깨끗하다.

【CE000073】

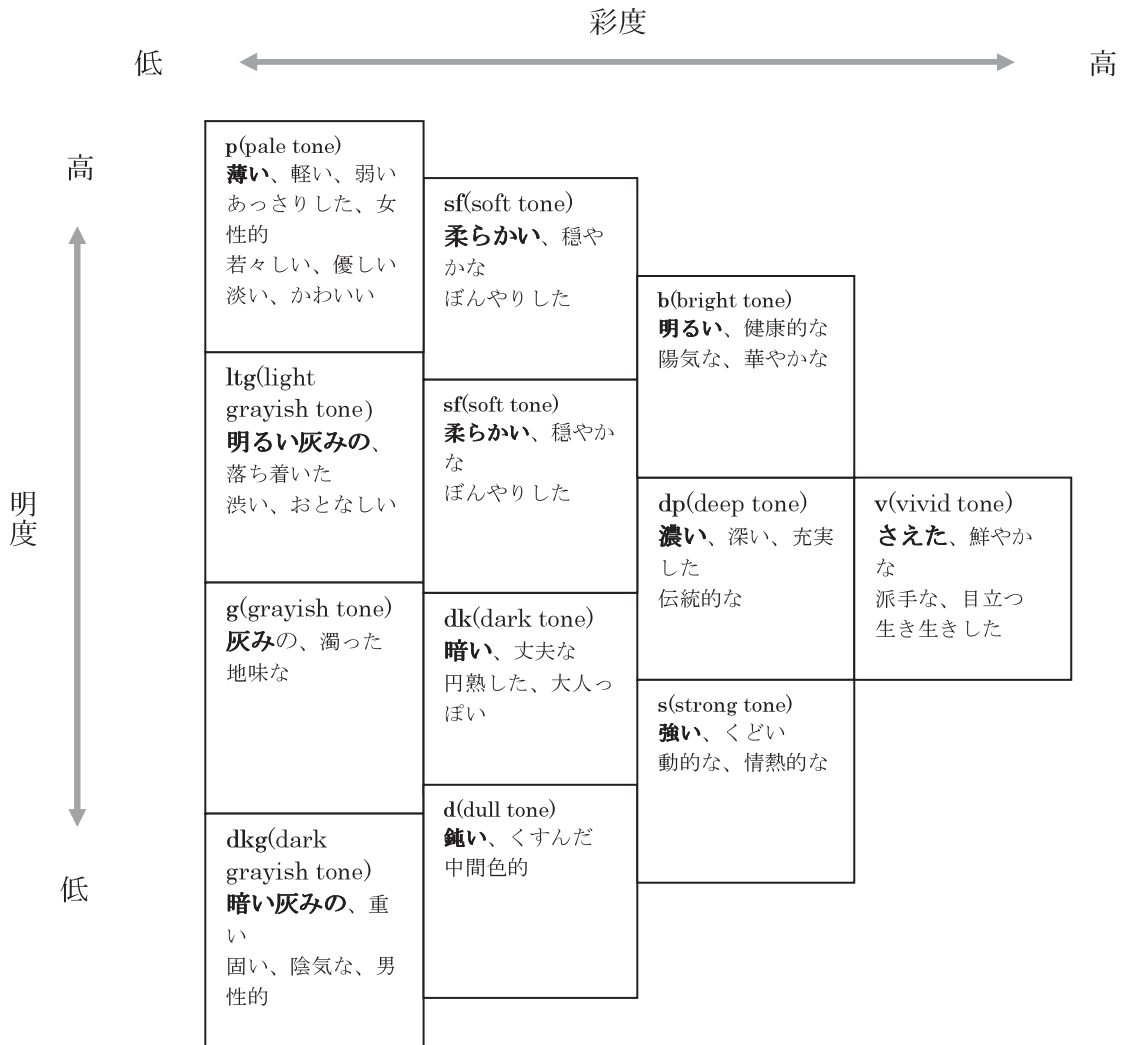
(クンスルは船乗りらしく日焼けした赤黒い顔だが, ポンサンは京江の商人よろしく長頭で顔は学者のように色白ですべすべしている.)

本研究の資料では, 名詞の色調表現に用いらた色彩語は, ‘검붉은’, ‘붉디붉은’ の合成色彩語および13の形態の派生色彩語である. 本稿では, これまでの色彩語の形態と色調表現の考察, およびPCCS (日本色彩研究所配色体系) による色の分類を参考に, これらの色彩語がそれぞれ色調表現の上でどのような位置関係にあるのかを検証した.

【図1】はPCCS（日本色彩研究所配系）の色調による色の分類である：

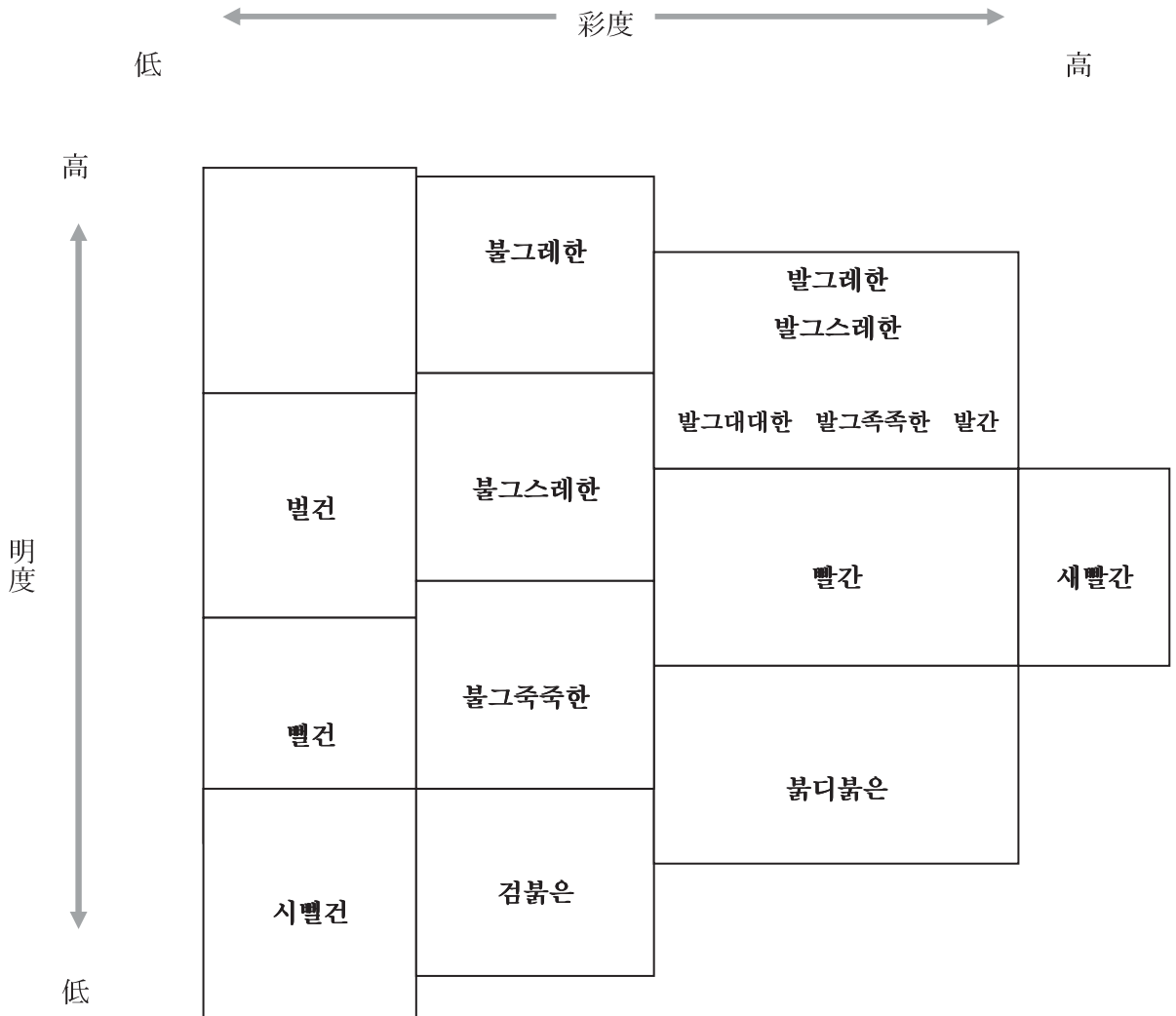
【図1】色調による色の分類

PCCS（日本色彩研究所配系）



【図2】は、本稿で位置づける、色調による色彩語の位置関係である：

【図2】色調による色彩語の位置関係



色彩語による名詞の色調表現は、文脈に適切な表現でなければならない。そのため、色彩語の選択の要因となるのは、色彩対象の名詞だけではなく、文の中でどのような他の語彙が現れるかによる場合がある。選択された色彩語によっては、文脈の状況の中で色彩語と名詞の共起関係が不自然になる場合がある。

(28a) 큰방에선 시뻘건 불이 훨훨 타고 있을 것이다. [BEXX0004]

(広間では真っ赤な火がゴウゴウ燃えているだろう.)

(28b) 큰방에선 빨간 불이 훨훨 타고 있을 것이다.

(広間では赤い火がゴウゴウ燃えているだろう.)

(28a) のように、明度が低く彩度が低い色調を表現する ‘시뻘건’ と ‘불 (火)’ の共起関係は文の ‘훨훨 타고 (ゴウゴウ燃えて)’ という状況で成立するが、(28b) のように、明度が高く彩度が高い色調を表現する ‘빨간’ と ‘불 (火)’ の共起関係はこの文の状況では不自然になる。

色の明るさや鮮やかさを表す色彩語の色調表現は、話し手が名詞の色を、明るく肯定的だと判断するか、あるいは暗く否定的だと判断するかの、次の「色の印象」の表現につながる場合がある。

#### 4. 1. 3. 色の印象の表現 (肯定的・否定的)

色彩語による名詞の色彩表現が、話し手の「色の印象」を表す表現の場合があり、話し手が名詞の色を、明るく肯定的だと判断するか、あるいは暗く否定的だと判断するかが色彩語に反映される。そして、話し手の「肯定的な色の印象」あるいは「否定的な色の印象」は、名詞と共起する色彩語の形態によって表現される。

‘빨강다/빨강다’ のような陽母音を含む (彩度高を表す) 色彩語は、名詞の色に対して話し手の肯定的な印象を表すが、‘벌짱다/벌짱다’ のような陰母音を含む (彩度低を表す) 色彩語は、否定的な印象を表す場合がある。

接頭辞の ‘시-’ を含む色彩語、つまり彩度の低さを強調する色彩語は、否定的な印象を強調する場合がある。しかし、彩度の高さ・低さとは関連なく、接頭辞の ‘새-’ を含む色彩語も、否定的な印象を表す場合がある。

接尾辞の ‘- 죽죽/죽죽-’ を含む色彩語は、色がくすんでいることを表現していて否定的な印象を表現し、‘- 데데/대대-’ を含む色彩語も、色がくすんで「品が無い」(천함) の否定的な印象を表現する場合がある。

接尾辞の ‘- 레-’ を含んで明度の高さを表現する色彩語は、明るさを表現して「美しい」(고움) の肯定的な表現をする場合がある。

次は、名詞と共起する色彩語が、名詞の色に対して、話し手の「肯定的な印象」を表現している例文である：

- (29) 신철이는 그의 발그레한 볼 위로 흐르는 눈물을 보니 그도 따라서  
속이 언짢아졌다. 【BEXX0005】  
(シンチョルは彼のほんのり赤い頬を伝う涙を見ると、自分もつられて胸が  
こみ上げてきた.)

- (30) 그래서 그녀는 지루한 귀로에 처음에는 자연히 동정어린 상냥한 미소를  
띠고 있었다. 그러나 이윽고 중년의 부친과 딸은 차차 얼굴이 창백해져서  
프랜시스 의 귀엽고 발그레한 얼굴이 푸르죽죽해지고 탐스럽던 얼굴 생김  
이 어느 때의 차분한 아름다움을 잃고 본래의 윤곽으로 되돌아감에 따라  
차차 코우프는 이 두 사람이 편히 쉬고 있을 때에는 무엇 하나 공통된 점이  
없었는데 불쾌해지면 서로 닮아지는 것을 깨달았다. 【D97\_B046】

(だから彼女は退屈な帰路に、初めは自然に同情に充ちたやさしい微笑を浮かべていた。しかしやがて中年の父親と娘はだんだん顔が青白くなり、フランシスの可愛らしくほんのり赤みがかった顔が蒼白になり、魅力的だった顔立ちが、いつもの物静かな美しさを失って本来の輪郭に戻るにつれ、次第にコープはこの二人がゆっくり休んでいるときは何一つ共通点がなかったのに、不快になると互いに似てくることに気づいた.)

(29) では, ‘볼 (頬)’가 ‘발그레한’과 共起することによって, 色調表現だけではなく, ‘볼’の色に対する話し手の肯定的な印象を表している。(30) では ‘얼굴 (顔)’は ‘발그레한’によって色調表現され, ‘얼굴’の色に対する話し手の肯定的な色の印象を表している。この肯定的な色の印象は, 文の ‘귀엽고 (可愛らしく)’などの他の語彙の表現からもうかがえる。また, (30) では ‘얼굴’の色が肯定的な印象から否定的な印象に変わる様子が二つの色彩語で比較され, ‘발그레한’とは対照的な表現の ‘푸르죽죽 (青白く)’が用いられている。

次は, 名詞と共起する色彩語が, 名詞の色に対して, 話し手の「否定的な印象」を表現している例文である:

- (31) 아버지의 코밑에서는 땀은 콧물이 질퍽하게 번져났고 주름잡힌 발그대  
대한 목덜미엔 잔소름이 막 돌아오르는 중이었다. 【BEXX0018】  
(父親の鼻の下には鼻水がじゅるじゅると滲み出ている, しわが寄った薄赤  
いうなじは今まさに鳥肌が立とうとしていた.)

- (32) 그날 밤 집으로 돌아간 나는 너무 취해서 낙지볶음 고추장이 묻어  
검붉은 얼룩이 난 봉투 속에 담긴 원고 봉치를 꺼내 보지도 못한 채로  
전축 옆에다 팽개쳐 두고는 그냥 잠이 들었다. 【CE000021】  
(その夜、家へ帰った私は泥酔していて、タコ炒めのコチュジャンが付い  
て赤黒いしみになった封筒に入った原稿の束を取り出し、見もしないで電  
蓄のそばに放り出すと、そのまま寝てしまった.)

上記の (31) では、‘목덜미 (うなじ)’ は、色の低い彩度を表す ‘밭그대대한’ によってく  
すんだ色調が表現される。さらに ‘콧물 (鼻水)’、‘주름 (しわ)’、‘잔소름 (鳥肌)’ などの否  
定的な印象をもたらす他の語彙と色彩語によって、‘목덜미’ の色に対する話し手の否定的な印  
象が表現されている。(32) では、低い明度を表す合成色彩語の ‘검붉은’ によって ‘얼룩 (染  
み)’ の色調および色の印象が表現され、文脈の状況からも話し手の否定的な色の印象が表れて  
いる。

- (33) 때 맞춘 듯 밖에서 인기척이 나더니 김기용이 벌건 얼굴로 들어와  
슬냄새를 확확 풍겼다. 【BEXX0024】  
(ちょうどそのとき外で人の気配がしたかと思うと、キム・ギヨンが赤い顔  
で入ってきて、酒臭い息をまき散らした.)

- (34) "에? 그래 그건 어떡하셨소?" "그거라니?" 안경잡이는 탄성을 붙이는  
말눈치다. "아, 저 토지 사건 말씀요."얼금뻥이는 주기가 도는 빨긴  
얼굴이 한층 더 붉어지는 듯하며 여전히 난로를 등지고 서서 묻는다.  
(「ええっ? そう。あれはどんなされた?」「あれだって?」眼鏡の男  
はとぼける口振りだ。「ああ、あの土地の事件のことですか。」あば  
た面の男は酒が回った赤い顔をさらに赤くして、相変らず暖炉を背にし  
て立って尋ねる.) 【BEXX0021】

上記の (33), (34) では、酔った男性の顔色の色調、色の否定的な印象が ‘벌건/빨긴’ に  
よって表現されている。

色彩語が名詞の否定的な色の印象を表現する場合、話し手の色に対する「恐怖感」、「不快感」、  
「異質感」を強調して、次のように表現する場合がある：



(恐怖の印象)

- (35) 갑자기 술꾼들은 그 괴물이 으르렁거리면서 입밖으로 시뻘건 잇몸을 드러내는 것을 보았고 문득 몸서리를 쳤다. 괴물은 서서히 기지개를 켜고 있었다. 그리고 다시 한 번 홍포하게 으르렁거렸다. 【BEXX0022】  
 (いきなり, 大酒飲みたちはその怪物がうなりながら真っ赤な歯ぐきを剥き出すのを見て, 思わず身震いした. 怪物はゆっくり伸びをしていた. そしてもう一度兇暴にうなり声を上げた.)

(35) では, ‘괴물 (怪物)’, ‘몸서리 (身震い)’, ‘홍포 (凶暴)’ 등의 「恐怖」を表す他の語彙と色彩語が現れるが, 色彩語も ‘잇몸 (歯ぐき)’ の色に対する話し手の「恐怖の印象」を表す. この場合, 恐怖の印象は ‘시뻘건’ によって強調される.

(不快な印象)

- (36) 비단도 아니고, 다우다도 아니고 뭇지는 몰라도 속이 다비치는 그 시뻘건 마후라를 목에다 감았다, 모자에다 꽃상여같이 동여감았다 별별짓을 다 했지요. 음내 사람이면 다 지 승을 보는데 눈하나 깜빡도 않고 다녔지요. 【CE000023】  
 (シルクでもなく, タフタでもなく, 何だか分からないけど, 中が全部透き通って見えるあの真っ赤なマフラーを首に巻いたり, 帽子に葬式の花みたいに結びついたり, 変なことばかりしていましたよ. 町の人は誰でもジスンの陰口を言うのに, 顔色ひとつ変えずに歩き回っていましたよ.)
- (37) 저런 불그죽죽한 입에서 신성한 통일노래가 나오는 걸 가만둘 수 없다. 네놈들이 통일이여 어서 오라고 부르짖는 것은 김일성이더러 적화통일하러 빨리 쳐내려오라는 것과 마찬가지로. 【CE000026】  
 (あんな赤い口から神聖な統一歌が出てくるのを見たら, たまったものではない. 貴様らが統一よ早く来いと叫ぶのは, 金日成に赤化統一しに早く攻め下って来いと言うのと同じだ.)
- (38) 쓰러진 늬의 앞이마에서 시뻘건 피가 흘렀다. 【CE000020】  
 (倒れたの奴の前額から真っ赤な血が流れた.)

(36) では, ‘속이 다비치는 (中が透き通って見える)’, ‘별별짓 (変なこと)’, ‘숨 (陰口)’ などの「不快感」を表す他の語彙と色彩語が現れるが, 色彩語も ‘마후라 (マフラー)’ の色に対して話し手の「不快な印象」を表している. このように, 色の不快な印象を強調するため ‘시빨건’ が用いられる場合がある. (37), (38) では, ‘네놈들 (貴様ら)’, ‘놈 (奴)’ の語彙と色彩語が現れ, 名詞の色の不快な印象を表している. この場合, ‘불그죽죽’, ‘시빨건’ の色彩語は, それぞれ ‘입 (口)’, ‘피 (血)’ と共起し, 否定的な色の印象を強調している.

(異質な印象)

- (39) 그중에 한 가지 인상이 깊은 것은 어느 큰 거리 한 뿌다귀에 벽돌 공장도 아닐 테요 감옥도 아닐 터인데 시빨건 벽돌만으로, 무슨 큰분묘 (墳墓) 와 같이 된 건축이 웅크리고 있는 것이다. 현은 운전수에게 물어 보니, 경찰서라고 했다. 또 한 가지 이상하다 생각한 것은, 그림자도 찾을 수 없는, 여자들의 머릿수건이다. 【BEXX0006】

(その中でも一つ印象深いのは, ある大通りの突端にレンガ工場でもなく監獄でもないだろうに真っ赤なレンガだけでできた, 大きな墳墓みたいな建物がうずくまるように建っていることだ. ヒョンが運転手に尋ねると, 警察署だといった. もうひとつ変だと思ったのは, どこにも見当たらない, 女たちの頭巾だ.)

- (40) 한여름도 아닌데 새빨간 반바지를 입고 있는 정혜는 반갑지도 않고 싫지도 않은 듯 무덤덤한 표정이었다. 【BEXX0001】  
(真夏でもないのに真っ赤な半ズボンをはいているジョンへは, うれしくもなく嫌でもないような何気ない表情だった.)

- (41) 언니가 입고 있는 몸에 착 달라붙은 새빨간 원피스도 생각해 보면 엄마의 분위기였던 것이다. 【BEXX0001】  
(姉さんが着ている体にぴったりした真っ赤なワンピースも, 考えてみれば母親の雰囲気のようなものだったのである.)

(39)~(41) では, ‘이상하다 (変だ)’, ‘한여름도 아닌데 (真夏でもないのに)’, ‘몸에 착 달라붙은 (体にぴったりした)’ などの「異質感」を表す他の語彙と色彩語が現れるが, 色彩語

も、名詞の色に対する話し手の「異質な印象」を表す。この場合の異質な印象は、‘새빨간’, ‘시뻘건’によって強調される。

このように、色彩語は必ずしも実際の色調を表すのではなく、名詞の色に対する話し手の否定的な感情を強調して表現する場合がある。恐怖感、不快感、異質感などの話し手の否定的な印象が強調して表現される場合、名詞と共に起る色彩語の形態は‘시뻘건’, ‘새빨간’で現れる。

色彩語の「色の印象」の表現では、共起する名詞が身体名詞（얼굴, 입, 볼など）であるならば、上記の例文のように、肯定的な色の表現のためには‘빨그레한’, ‘불그레한’が用いられ、否定的な色の表現のためには‘불그대대’, ‘불그죽죽’が用いられる場合がある。

#### 4. 2. 色彩以外に関する表現の場合

色彩語による表現が、名詞の色彩に関する表現ではなく、名詞の色彩以外に関する表現である場合がある。次は、「内的心理の表現」、「象徴的表現」、「慣用的表現」に用いられる色彩語の特徴を検証する。

##### 4. 2. 1. 内的心理の表現

赤い顔には、怒りや恥ずかしさなどの感情が現れている場合がある。色彩語は、色彩の意味から、心理的な現象を反映する「内的心理の意味」に意味拡張する場合がある（例：시뻘건 얼굴（赤い顔）→ 화난 얼굴（怒った顔））。これは、色彩語の色彩の意味が、メトニミー<sup>3</sup> (metonymy) という認知プロセスによって意味拡張されるものである。

同一の色彩語が特定の名詞と共に起し、様々な内的心理を外界に表す機能を果たすことができる（例：시뻘건 얼굴（赤い顔）→ 화난 얼굴（怒った顔）、괴로운 얼굴（苦しむ顔）、창피한 얼굴（恥ずかしい顔）など）。色彩語の色彩の意味を特定の拡張された意味（怒りなど）に関連づけるためには、文脈を手掛かりに文の他の語彙に注目する必要がある。

(42a) の‘얼굴（顔）’と共に起る色彩語の表現では、色彩の意味を特定の内的心理の意味に関連付けることができない場合である：

(42a) 때 맞춘 듯 밖에서 인기척이 나더니 김기용이 벌건 얼굴로 들어와

술냄새를 확확 풍겼다.

【BEXX0024】

<sup>3</sup>概念の関連・近接性に基づいて語句の意味を拡張して用いる、比喩の一種である（例：ハンドルを握る→自動車を運転する）。初山・深田(2003)は、二つの事物の外界における隣接性、あるいは二つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩だと定義している。

(ちょうどその時外で人の気配がしたかと思うと, キム・ギヨンが赤い顔で入ってきて, 酒臭い息を振りまいた.)

(42b) 때 맞춘 듯 밖에서 인기척이 나더니 김기용이 화난 얼굴로 들어와 술냄새를 확확 풍겼다.

(ちょうどその時外で人の気配がしたかと思うと, キム・ギヨンが怒った顔で入ってきて, 酒臭い息を振りまいた.)

(42c) 때 맞춘 듯 밖에서 인기척이 나더니 김기용이 창피한 얼굴로 들어와 술냄새를 확확 풍겼다.

(ちょうどその時外で人の気配がしたかと思うと, キム・ギヨンが恥ずかしそうな顔で入ってきて, 酒臭い息を振りまいた.)

(42a) の文脈から, ‘얼굴 (顔)’ が ‘벌건 (赤い)’ 要因は, ‘술 (お酒)’ であることが分かる. しかし, ‘벌건 (赤い)’ が表す内的心理はどうかは, (42b) と (42c) のように, ‘화난 (怒った)’, ‘창피한 (恥ずかしい)’ など様々な場合が考えられ, 特定の内的心理を推測することはできない.

(43a) 성난 사과처럼, 의경들이 벌건 얼굴들을 쳐들고 흥분하기 시작하였다.

【BEXX0017】

(怒ったリンゴのように, 機動警察隊が赤い顔をして興奮し始めた.)

(43b) 성난 사과처럼, 의경들이 화난 얼굴들을 쳐들고 흥분하기 시작하였다.

(怒ったリンゴのように, 機動警察隊が怒った顔で興奮し始めた.)

(43a) の文では, ‘성난 사과 (怒ったりんご)’ の語句から, ‘얼굴 (顔)’ が ‘벌건 (赤い)’ 要因は「怒り」であることが分かる. 同時に様々な外的要因 (お酒など) があるとしても, 色彩語の色彩の意味は特定の内的心理の意味に意味拡張されることができる. この場合, (43b) のように ‘벌건’ を ‘화난 (怒った)’ に置き換えられる.

同じく (44a) の文脈では, 色彩語の色彩の意味は, 特定の内的心理の意味に拡張されることができる. この場合, ‘벌건’ を ‘자존심 상한 (自尊心が傷いた)’ に置き換えられる:

- (44a) 헛도는 그래도 자존심이 다 회복되지 않은 모양인지 벌건 얼굴에 가쁜 숨을 식식거렸다. 【BEXX0024】  
 (ハットはそれでも 自尊心が十分回復しなかったのか, 赤い顔をして息づかいが荒かった.)
- (44b) 헛도는 그래도 자존심이 다 회복되지 않은 모양인지 자존심 상한 얼굴에 가쁜 숨을 식식거렸다.  
 (ハットはそれでも 自尊心が十分回復しなかったのか, 自尊心が傷つけられた顔で息づかいが荒かった.)

また、次の (45a) の語句である ‘먹살이라도 잡을 듯이 (胸ぐらをつかむような勢いで)’ から, ‘눈 (目)’ が ‘빨건 (赤い)’ 要因は「怒り」だと推測できる. 同時に様々な外的要因 (お酒など) があるとしても, 色彩語の色彩の意味は, 特定の内的心理の意味に意味拡張されることができる. この場合, ‘빨건’ を ‘화난 (怒った)’ に置き換えられる.

- (45a) 금세 먹살이라도 잡을 듯이 최 의원이 따져 물었다. 【BEXX0001】  
 왕창 일그러진 표정에서 빨건 눈이 매섭게 빛나고 있었다.  
 (即座に胸ぐらをつかむような勢いで崔議員が問い質した.  
 思い切りゆがんだ表情には赤く燃えるまなざしが陰しく光っていた.)
- (45b) 금세 먹살이라도 잡을 듯이 최 의원이 따져 물었다.  
 왕창 일그러진 표정에서 화난 눈이 매섭게 빛나고 있었다.  
 (即座に胸ぐらをつかむような勢いで崔議員が問い質した.  
 思い切りゆがんだ表情には怒りのまなざしが陰しく光っていた.)

このように, ‘얼굴 (顔)’ または ‘눈 (目)’ の名詞と共起する色彩語は, 文脈によって内的心理の表現に用いられる場合がある. 内的心理の表現が「怒り」などの否定的な意味の表現であるなら, 色彩語の形態は ‘벌건’ または ‘빨건’ で現れる.

#### 4. 2. 2. 象徴的表現

赤の色から, 정열 (情熱), 위험 (危険), 혁명 (革命)などを連想することができる. 色彩語は共起する名詞によって, 色彩の意味から特定の象徴の意味に意味拡張される場合がある:

빨간 신호등 (赤信号), 빨간 → 정지 (停止). これは, 色彩語の色彩の意味が, メタファー<sup>4</sup> (metaphor) という認知プロセスによって意味拡張されるものである. 色彩から連想する象徴の意味と名詞の意味が共に一つの表現となり, 色彩語と名詞はまるで一つの語句のように用いられる場合がある.

以下の例文では, 色彩語は「血の気」, 「怒り」, 「削除」, 「共産党」, 「誠実」などを象徴する. 色彩語の色彩の意味は共起する名詞と文の状況によって, これらの特定の象徴の意味に意味拡張される:

- (46) 박선생의 차마 감지 못한 눈동자엔 도살된 소의 까뒤집힌 눈빛이 아니라 푸르게 갠 하늘을 보는 듯한 해맑은 청기가 감돌았고 아직도 핏기가 가지지 않은 붉은 입술엔 한가닥 슬픈 미소의 꼬리가 물려 있었다. 【CE000026】  
(朴さんの開いたままの瞳には, 屠殺された牛の目を剥いた目つきでなく, 青く晴れた空を見るような明るい精気が漂っ手いて, まだ血の気の去らぬ赤い唇には一筋の悲しい微笑の名残が尾を引いていた.)

上記のように, 色彩語が「입술 (唇)」と共起し, 「붉은」の形態で「血の気」を象徴する場合がある.

- (47) 그녀는 뛰어가 백화점 옆의 작은 횡단보도를 건넜다. 그녀가 건너자마자 빨간 불이 켜졌다. 【DD96AA114】  
(彼女は走って行ってデパートのそばの小さい横断歩道を渡った.  
彼女が渡るやいなや (信号が) 赤になった.)

上記のように, 色彩語が「불 (信号)」と共起し, 「빨간」の形態で「信号の赤」を象徴する場合がある.

- (48) 그것은 최 의원의, 너 같은 자식은 호적에서 빨간 줄 하나 그어 버리면 그만이다는 식의 철저한 무관심, 냉정한 포기의 표현인지도 몰랐다. 【BEXX0001】  
(それは崔議員の, お前なんか戸籍に赤い線を一本ひいてしまえば終わり

<sup>4</sup> 概念を, 類似性に基づいて結びつけた比喩である(例: 人生は旅だ). 初山・深田(2003)は, 二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて, 一方の事物・概念を表す形式を用いて, 他方の事物・概念を表すという比喩だと定義している.

だというような徹底した無関心, 非情な諦めの表現なのかもしれなかった.)

- (49) 면사무소에 가서 호적등본, 신원증명원, 주민등록등본을 각각 세 통씩 떼었다. 해숙의 이름 위에는 붉은 줄이 가로질러 그어져 있었다.  
(村役場に行って戸籍謄本, 身元証明書, 住民登録謄本をそれぞれ3通ずつ取った. ヘスクの名前には赤い線が引かれていた.) 【BEXX0009】

上記のように, 色彩語が ‘줄’ (戸籍などでの線) と共起し, ‘빨간’ また는 ‘붉은’ の形態で「削除」を象徴する場合がある.

- (50) 지금이라도 늦지 않다. 전향한다고 한마디만 말하면 여러분들은 따뜻한 그러나 붉은 사상에 매달려 끝까지 미련을 피우고 고집을 부리면 여러분 앞에 남아 있는 길이란 죽음밖에 없다. 【CE000026】  
(今からでも遅くない. 転向するとひとこと言いさえすれば, 皆さんは思いやりがあるがアカい思想にすがって, 最後まで未練たらしく意地を張れば, 皆さんの前に残っている道は死しかない.)

- (51) 너 서방은 예비검속으루 처형됐구, 그래서 네넌은 미국 정부에 앙심을 품었지? 네. 붉은 세상이 평생 갈 줄 알었지? 【BEXX0019】  
(あんたの旦那は予備検束で処刑されて, それでてめえは米国政府に恨みを抱いたんだろう? はい, アカの世の中が一生続くと思ったんだろう?)

上記のように, 色彩語が ‘사상 (思想)’, ‘세상 (世界)’ と共起し, ‘붉은’ の形態で「共産主義」を象徴する場合がある.

- (52) 빨래터 순이는 꽃송이 보거든 내 붉은 마음인 줄 알런지.  
허선생의 노래는 아름다웠고 애절했다. 【CE000026】  
(洗濯場のスニは花を見たら私の赤い心 (真心) だと思うだろうか.  
許先生の歌は美しくも切なかった.)

上記のように, 色彩語が ‘마음 (心)’ と共起し, ‘붉은’ の形態で「誠意」を象徴する場

合がある.

このように, 特定の名詞と共起する色彩語は象徴的表現に用いられる場合があり, 色彩語の形態は名詞によって ‘붉은’ または ‘빨간’ で現れる.

#### 4. 2. 3. 慣用的表現

色彩語が特定の名詞と現れ, 名詞と共に慣用句を形成する場合がある. 慣用句の色彩語は色彩の意味を失い, 色彩語の意味は色彩とは関わりのない新しい意味に拡張される.

- (53a) 다른 사람이라면 혹 속아넘어 갈지도 모르겠지만, 그러나 세진은 그것이 새빨간 거짓말이라는 것쯤 오랜 경험을 통해 익히 알고 있었다.

【CE000030】

(他の人なら, ひょっとしたらだまされしまったかもしれないが, しかし 세진은それが真っ赤な嘘だということぐらい長年の経験を通じて十分知っていた.)

上記の (53a) では, 色彩語は ‘거짓말 (嘘)’ と共起し, ‘새빨간 거짓말’ は ‘터무니 없는 거짓말 (真っ赤な嘘)’ の慣用句を形成する. 話し手の否定的な感情を慣用句に加え表現するために, 色彩語は (53b) のように ‘시뻘건’ の形態で用いられる場合がある. しかし (53c) または (53d) のように, ‘새빨간 거짓말’ の慣用句の色彩語を ‘붉은’ または ‘발그대대한’ のような接尾詞を含む派生色彩語には置き換えられない.

- (53b) 그나마 믿었던 덕호까지도 저런 시뻘건 거짓말을 하는 것을 들으니, 이젠 다시는 선비를 가까이하지 않고 내보내려는 심산인 것을 깨달았다.

【BEXX0005】

(それでも信じていたトクホまで, あんな真っ赤な嘘をつくのを聞くと, もう二度とソンビに近づかないで追い出そうとしているつもりであることに気づいた.)

- (53c) \*다른 사람이라면 혹 속아넘어 갈지도 모르겠지만, 그러나 세진은 그것이 붉은 거짓말이라는 것쯤 오랜 경험을 통해 익히 알고 있었다.

- (53d) \*그나마 믿었던 덕호까지도 저런 발그대대한 거짓말을 하는 것을 들으니, 이젠 다시는 선비를 가까이하지 않고 내보내려는 심산인 것을



깨달았다.

(54a) の色彩語は ‘상놈/쇠상놈 (奴)’ と共起し, ‘발간 상놈/쇠상놈’ は ‘더 말할 나위 없는 상놈/쇠상놈 (下品な奴)’ の慣用句を形成する. 話し手の否定的な感情を慣用句に加え表現するため, 色彩語は (54b) の ‘별건’ の形態に置き換えられる場合があるが, (54c) の ‘붉은’ または接尾詞を含む派生色彩語には置き換えられない.

(54a) 특히 할머니는 자신이 갯마을에 살면서도 갯가 사람들은 발간 쇠상놈이며 상종을 말라고 으르딱딱이셨다. 【CE000026】  
(特に祖母は自分が漁村に住みながらも、漁村の者は下品な奴だから相手にするなと息巻いた.)

(54b) 특히 할머니는 자신이 갯마을에 살면서도 갯가 사람들은 별건 쇠상놈이며 상종을 말라고 으르딱딱이셨다.

(54c) \*특히 할머니는 자신이 갯마을에 살면서도 갯가 사람들은 붉은 쇠상놈이며 상종을 말라고 으르딱딱이셨다.

このように, 特定の名詞と色彩語が共起し, 色彩語は慣用的表現に用いられる場合がある. 上記のように色彩語の形態は, 名詞が ‘거짓말 (嘘)’ であれば ‘새빨간’, 名詞が ‘상놈/쇠상놈 (奴)’ であれば ‘발간’ で現れる. また, 慣用句の構造である「色彩語+名詞」は, 色彩語が叙述形の「名詞+色彩語」で表すことはできない.

## 5. おわりに

韓国語の固有語の色彩語はその数が豊富であり, 同一の色彩語が複数の表現のために用いられる場合がある. 色彩語は単独でその意味が実現される場合があるが, 他の語彙との関わりの中で適切に選択され用いられる多くの色彩語は, 他の語彙との関わりの中でその意味, 特徴が明らかになる. 本稿では, 色彩語が[色彩形容詞+名詞]の形式で現れる時に, 色彩語による表現が「名詞の色彩に関する表現の場合」と「名詞の色彩以外に関する表現の場合」に色彩語の特徴を検証した.

### [色彩に関する表現の場合]

色彩語による名詞の表現が名詞の色彩に関する表現である場合, 色彩語は「色相」, 「色調」,

「色の印象」の表現に用いられる。

名詞の「色相のみ」の表現である場合、この「基本的意味」の表現に用いられる色彩語の形態は ‘붉은’ または ‘빨간’ であり、これらの色彩語がそれぞれ同一の名詞と共に現れる場合も、それぞれ特定の名詞と共に共起する場合もあった。

名詞の「色調」に用いられる色彩語の形態は、‘검붉은’, ‘붉디붉은’ の合成色彩語および13の形態の派生色彩語である。本稿では、色調表現を、‘검다’ との結合による明度、色彩語の母音、子音、接頭辞、接尾辞などで表現される明度と彩度の「複合表現」とし、色調表現上でこれらの色彩語がどのような位置関係にあるかを検証した(【図2】)。色彩語は様々な名詞の色調の表現に用いられるが、特に「身体」に関する名詞と現れる色彩語の形態は多く見られ、‘빨간’, ‘발그스레한’, ‘발그죽죽한’ を除く派生色彩語および ‘검붉은’ と共に現れた。

色の明るさや鮮やかさを表す色彩語の色調表現は、話し手が名詞の色を明るく肯定的だと判断するか、あるいは暗く否定的だと判断するかの「色の印象」の表現につながる場合がある。そして、話し手の「肯定的な色の印象」あるいは「否定的な色の印象」は、名詞と共に共起する色彩語の形態によって表現される。‘빨간/빨간’ のような陽母音を含む(彩度高を表す)色彩語は名詞の色に対して話し手の肯定的な印象を表すが、‘별건/별건’ のような陰母音を含む(彩度低を表す)色彩語は否定的な印象を表す場合がある。例えば、酔った男性の ‘얼굴 (顔)’ は ‘별건/별건’ と共起することによって、色調だけではなく否定的な色の印象が表現される。低い明度を表す合成色彩語の ‘검붉은’ は、否定的な色の印象を表す場合がある。接頭辞の ‘시-’ を含む色彩語、つまり彩度の低さを強調する色彩語は、話し手の色に対する「恐怖感」、「不快感」、「異質感」などの否定的な印象を強調して表現する場合がある。また、彩度の高さとは関連なく、接頭辞の ‘새-’ を含む色彩語も、このような否定的な色の印象を強調する場合がある。接尾辞の ‘- 죽죽/죽죽-’ を含む色彩語は、色がくすんでいることを表し、‘- 데데/대대-’ を含む色彩語も、色がくすんで「品が無い」(천함) の否定的な色の印象を表現する。接尾辞の ‘- 레-’ を含んで明度の高さを表現する色彩語は、明るさを表現して「美しい」(고움) の肯定的な表現をする場合がある。例えば、‘볼 (頬)’ は ‘발그레한’, ‘얼굴 (顔)’ は ‘볼그레한’ と共起することによって、肯定的な色の印象が表現される。

### 【色彩以外に関する表現の場合】

色彩語による名詞の表現が、名詞の色彩以外に関する表現である場合、色彩語は「内的心理の表現」、「象徴的表現」、「慣用的表現」に用いられる。

「赤い顔」には、怒りや恥ずかしさなどの感情が現れている場合がある。色彩語は、色彩の意味から心理的な現象を反映する「内的心理の意味」に意味拡張される場合がある。例えば、‘별건 얼굴’ で ‘별건’ の色彩の意味(赤い)は、文脈によって特定の内的心理の意味(怒りな

ど)に意味拡張される場合がある。したがって, ‘벌건 얼굴’ の ‘벌건’ を ‘화난(怒った)’ などに置き換え表現できる場合がある。

赤の色から, 정열(情熱), 위험(危険), 혁명(革命)などを連想することができる。色彩語は, 色彩の意味から「象徴的意味」に意味拡張される場合がある。例えば, ‘붉은 사상’ の ‘붉은’ の色彩の意味(赤い)は, ‘共産主義’ の意味に意味拡張される。この場合, ‘붉은 사상’ の ‘붉은’ を ‘共産主義’ に置き換え表現できる。

色彩語は名詞と共に現れ, 慣用句を形成する場合がある。慣用句の色彩語は, 色彩の意味を失い, 色彩の意味とは関わりのない新しい「慣用的意味」に意味拡張される。例えば ‘새빨간 거짓말’ の慣用句では, ‘새빨간’ の意味は ‘터무니 없는(まったくの)’ の意味に意味拡張される。‘새빨간 거짓말’ の慣用句に, 話し手の否定的な感情を加え表現する場合は, 色彩語は ‘시뻔건’ の形態に置き換えられる。しかし, 色彩語を ‘붉은’ または ‘발그대대한’ のような接尾詞を含む派生色彩語には置き換えられない。色彩語が ‘더 말할 나위 없는(下品な)’ の意味に意味拡張される ‘발간 상놈/쇠상놈’ の慣用句では, 話し手の否定的な感情を加え表現する場合, 色彩語は ‘벌건’ の形態に置き換えられる。しかし, ‘붉은’ または接尾詞を含む派生色彩語には置き換えられない。

このように, 色彩語は, 名詞の「色相表現」, 「色調表現」, 「色の印象の表現」, 「内的心理の表現」, 「象徴的表現」, 「慣用的表現」に用いられている。それぞれの表現の場合に, 色彩語の形態は共起する名詞と関わりがあり, 文脈の中で実現される色彩語の意味と密接な関わりがあることを検証した。今後はさらに多くの用例をもって色彩語の特徴をより客観的に分析することを課題にする。

## 参考文献

- 谷崎美津子 (2008) ‘한국어 색채 표현 교육 연구’ 서울대학교 교육학석사학위논문  
 손세모들 (2000) ‘국어 색채어 연구’ “한말연구” 제6호 한말연구학회  
 송현주 (2003) ‘색채 형용사의 의미 확장 양상’ 경북대학교 “언어과학연구” 제24집  
 이은섭 (2008) ‘한국어와 일본어의 색채어 형성 대비 연구’ “이중언어학” 제36호 二重言語學會  
 임지룡 (2009) “국어 의미론” 서울: 탑출판사  
 채완 (2003) “한국어의 의성어와 의태어” 서울: 서울대학교

- 青山秀夫 (1966) 「朝鮮語の色彩形容詞に就いて」『朝鮮学報』第三十九・四十輯 天理：朝鮮学会
- 有菌智美 (2008) 「顔の意味拡張に対する認知的考察」『言葉と文化』名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 李翊燮・李相億・蔡婉 (2004) 『韓国語概説』前田真彦訳 東京：大修館書店
- 李静暁 (2008) 「色彩語の意味拡張メカニズムに関する研究」お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム
- 大石 亨 「日本語形容詞の意味拡張をもたらす認知機構について」日本認知言語学会論文集
- 權寧成 (2005) 「日・韓両語の色彩語に関する対照言語学的研究」 広島大学大学院教育学研究
- 張錫璟 (2010) 「現代韓国語の色彩語」『宮城学院女子大学研究論文集』111号
- 崔貞伊 (2000) 「日本語と韓国語における基本色彩語の色カテゴリー及び色名の色彩学的研究」 女子美術大学大学院美術研究科 博士論文
- 中西恭子 (2007) 「形容詞をめぐる」『韓国語教育論講座』第1巻, 東京：くろしお出版
- 南潤珍 (2007) 「韓国語教育におけるコロケーション情報の活用」『韓国語教育論講座』第1巻, 東京：くろしお出版
- 野間秀樹 (1990) 「現代韓国語の名詞分類—語彙論・文法論のために」『朝鮮学報』第135輯 天理：朝鮮学会
- 野間秀樹 (2008) 「音と意味の間に」『国文学』第五十三卷十四号 東京：學燈社
- 初山洋介・深田智 (2003) 「意味の拡張」『認知意味論』松本曜編 東京：大修館書店
- Durrant, Philip and Norbert Schmitt (2010) “Adult Learners’ Retention of Collocations from Exposure” Singapore: Second Language Research Volume 26
- Pérez, Maribel Prieto (2002) “What Does Red Mean? :The Complexities of the Word Red and Their Implications for the English Language Classroom” Tudela: Universidad Nacional de Educación a Distancia, UNED
- Philip, Gillian Susan (2003) “Collocation and Connotation: A Corpus-Based Investigation Of Colour Words in English and Italian” Birmingham : The University of Birmingham
- Singleton, David (2000) “Language and Lexicon: An Introduction” London : Edward Arnold
- Sinclair, J. (1991) “Corpus, Concordance, Collocation” Oxford: Oxford University Press.
- Steinval, Anders (2006) “Basic Colour Terms and Type Modification, Progress in Colour Studies” Philadelphia : John Benjamins
- Whorf, Benjamin (1956) “Language, thought, and reality” Cambridge: MIT Press

Wylter, Siegfried (1992) “Colour and Language” Tübingen: Gunter Narr Verlag

**辞書類**

국립국어연구원編 (1999) “표준국어대사전” 서울: 두산동아

연세대학교 언어정보개발연구원 (1998) “연세한국어사전” 서울: 두산동아

塚本勲他編 (1986) 『朝鮮語大辞典』, 大阪: 角川書店